

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果
作成日

平成25年5月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000153		
法人名	株式会社シンシア		
事業所名	あいおいホーム		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	東大阪市大蓮北2丁目1番22号		
自己評価作成日	平成25年3月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	
情報提供票を活用する場合	別添情報提供票のとおり

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カロア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4-4-33
訪問調査日	平成25年4月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常のありきたりの生活の中で自分らしい居場所を見つけ安心して最後の時までお過ごしいただけるよう努めている。代表者兼管理者が看護師資格を持ち、経験のある保健師であるので見取りケアまで行うのが当ホームの特徴である。また、地域包括ケアに一役担えればというケア目標を持ち、地域に開かれたグループホームを目指している。具体的には、8メートルの大門を日中は全開口しており、玄関施設は行っておらず、外部訪問者の出入りは自由に受け入れており、ご利用者様の外出はスタッフ同行の上、ご希望に沿い随時行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

最寄り駅から徒歩数分と交通の便に優れ、街中に自然と溶け込んだ気軽に訪れやすい雰囲気のあるホームです。代表者兼管理者は「保健師」「看護師」「ケアマネジャー」「精神保健福祉士」といった認知症ケアを行う上で欠かせない複数の国家資格等を有しており、その専門性を十分に発揮した質の高いケアサービスを提供しています。
また、入居者の人生最期の時まで寄り添う看取りケアにも力を入れておられる上、経済面で公的支援が必要な人や身寄りのない人などの受け入れや支援も積極的に行っています。日常的な看護的対応が必要な方にとっても安心してお任せすることのできるホームであるとの印象を受けました。
地域住民の介護相談も随時受け付けておられる、まさに地域密着型のホームです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「まごころ、ふれあい、助け合い」の理念を掲げ、玄関に掲示し新人教育の際に周知徹底している。また、毎日朝夕申送り時に職員一同唱和している。	「まごころ、ふれあい、助け合い」の理念を掲げ、一階玄関に掲示し一年前より毎日の朝夕の申し送り時に職員と一緒に唱和し周知徹底しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアと交流機会を毎月の誕生日会の際に持っている。	ボランティアの方々が年に数回誕生会に参加し、歌体操や指体操といった催しを行っています。また、近隣の街角デイサービスの利用者と一緒に遠足に行くなど、地域交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の門前に無料介護相談承る胸を掲示し、介護相談があれば所内相談や訪問相談、電話相談に応じている。また施設見学を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域包括支援センター、地域ボランティア、市議員、スタッフで会議を構成し2か月ごとに実施し、家族会を併設し家族参加を促している。	利用者、家族、地域包括支援センター、地域ボランティア、市議員、スタッフ等で会議を構成し2か月ごとに実施しています。また、同じ日に家族会も開催し、家族に参加を促す努力もされています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	質問・報告などその都度電話等で行っている。	その都度市町村へ連絡を入れ、質問・報告を行っています。また、わからないことがあれば窓口に行くなど連携を密に取っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践を要綱に基づきスタッフ間で徹底し見守りに主眼を置き実行している。	現在、身体拘束は一切行われていません。玄関も9時から18時まで開錠するなどの配慮が見られます。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の取り組みを要綱に基づきスタッフ間で徹底している。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を活用するよう心がけており、現に制度利用者がおられ、スタッフ間で知識の共有化を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約に基づき本人及び家族に説明を行っており、各2部作成し双方が保有している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に外部相談機関及びその連絡先を列記し、説明している。また意見箱を玄関に設置している。	気軽にご家族がスタッフに話しが出来る環境をつくり、スタッフもご家族とコミュニケーションをとるよう努力していました。また、意見箱も玄関に設置してありました。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	スタッフリーダーを通じてスタッフ意見を運営に反映させている。また、毎月リーダー会議や各ユニット会議、ケース会議を頻回に開催し全スタッフが会議に参加する体制を作っている。	会議を頻回に行い、全スタッフが参加出来るような体制をつくり、その都度スタッフの意見を聞き取りながら運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフリーダーを通じてスタッフ意見を運営に反映させている。また、毎月リーダー会議を開催している。年単位で昇格・昇給の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一同にリーダーの役割機会を設けている。また資格取得支援体制を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市の地域密着型サービス協議会に参加し、スタッフに順番で研修参加の機会を設けている。		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居に際し、病院ベッドサイド訪問や居宅訪問を必ず実施し、入居の意思確認をしている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居に際し、病院ベッドサイド訪問や居宅訪問を必ず実施し、入居の意思確認をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学を必ずお勧めし、介護相談を行い軽度の場合は他サービスを、重度の場合は病院受診をご紹介することもある。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対等の立場で話し合いを持つことを状態とし、お客様の扱いをよしとしていない。	
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事あるごとにご家族と密に連絡を取るよう心がけている。	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に開かれたホームをコンセプトに知人やご家族の訪問や外出支援に力を注いでいる。また日中は玄関開錠し開門している。	入居前に家庭訪問を行い、出来る限り自宅の部屋を再現するよう努力しています。また、以前から行っていたパーマ屋に行くなどの支援も行われています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良しあしを考慮したテーブルの着席位置やソファの着席位置など環境整備に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去後も電話相談等に応じるよう努めている。	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む暮らしぶりにはできるだけ沿うよう努めている。	日頃のコミュニケーションの中からお本人の意向や過去の生活歴などを聞きだし、出来る限り意向に沿えるよう努力されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご入居に際して、できる限り居宅訪問を行い、家具の配置等に配慮し以前の環境に近い環境整備に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日日のケアに際し、担当制を実施し、各個人の状態把握を細やかに行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフからの密な状況を報告やご本人、ご家族のご希望に沿うケアプラン作成を心がけている。ケース会議やユニット会議でスタッフ全員参加のケアプラン作成を実施している。	日々のケアを連動させながら、ご本人、ご家族のご希望に沿うケアプラン作成を心がけ、ケース会議やユニット会議でスタッフ全員参加の計画作成を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は日勤帯、夜勤帯を色分け別記し、きめ細かい内容記録に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症ケアは個人差が大きいことを勘案し画一的でないケアを心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に豊富に存在する公園を散歩に活用し季節感を味わっていただくよう心がけている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は近隣開業医に協力医療機関を依頼し、近隣病院に月2回訪問診療を依頼し行っている。必要時に訪問歯科診療を行っている。	必要時には入居前のかかりつけ医にも通える体制をとっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	ホーム代表者兼管理者兼計画作成担当者が看護師であるのでケアプランや指示は介護スタッフに浸透しやすい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時の文書による情報提供への協力に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護の要綱に基づき、ご入居時より看取りが可能な施設である旨を説明し、必要に際しては主治医からの説明を実施していただいている。	週一回のケース会議をもち、スタッフ全員で情報を共有しながら、可能な限り入居者に寄り添えるような支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハット、事故報告書の報告及び記録の提出の徹底を図っている。また日頃から報告連絡相談体制を一貫し急変時の迅速対応を心がけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフ、利用者、家族の参加のもと、消防訓練を6か月ごとに行っている。	スタッフ、利用者、家族、消防署立会いの下、消防訓練を6か月ごとに行っています。また、参加出来なかった職員には伝達研修を行っています。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者への言葉かけについては、スタッフマニュアルで謳っており、スタッフ間で注意し合う環境づくりに努めている。	排泄誘導時等には一度お部屋に入ってから説明するなど、ご利用者のプライバシーに配慮しています。また居室の中が他者に見えないよう、防火性のれんを使用しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ルーチン業務を優先せず、本人の意向に沿うケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ルーチン業務を優先せず、本人の意向に沿うケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散歩等の外出に際しては服装の相談に応じたり、女性は化粧、男性は髭剃りを援助し、定期的に理美容を受けていただく等、その人らしい身だしなみに配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の嚥下体操に楽しく参加していただき、個人の力量に応じてテーブルを拭いたり、食器の片づけを行っていただく。また、カレーライスの盛り付けやチラン寿司作りなど簡単な調理に参	食事前に嚥下体操を行うなど、食事に対し楽しみながら参加出来るよう支援し、また簡単な盛り付けには極力参加していただけるよう努力しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	各個人記録には摂取水分量、回数、食事量を記録し食事の好みや嗜好に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを各個人の口腔の状態に応じて実施している。また必要時に訪問歯科診療を行っている。		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	夜間と日中のおむつやパッド、リハビリパンツの使い分けを実施、トイレ介助を優先する等、機能保持に努めている。	排泄動作に対し、残存機能を維持させるために、極力自分でできることはしていただくなどといった支援をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録に各個人の排便記録を詳細に書き込み、腹部マッサージや適正な水分補給と水分量の管理等、便秘の管理を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴実施、入浴予定カレンダー化し6～10月は週3回、11～5月は週2回入浴していただく。シャワー浴の方には足浴を行っている。	入浴剤を使用するなど、入浴を楽しむことができるよう支援しています。また、ミスト浴なども検討されています。入浴を拒否される入居者には時間を開けてさりげなく声かけをするなどの配慮も	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節を通じた室温湿度管理に注意し、ベッドの環境整備、体位変換、良肢位保持等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録にはお薬説明書を添付しスタッフ間で共有化し、介護記録に服薬者印を残す、服薬時の対象者名と日付の音読等を実施し投薬ミスのないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵や塗り絵、習字、折り紙、散歩、日光浴、ラジオ体操など個人の能力、生活歴、正確に応じた対応に努めている。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩を常態化しているほか、外出・外泊は積極にご家族が行えるよう環境整備している。	敷地内での日光浴や近隣への散歩、お花見、遠足、外泊など、日常的に外出支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームは生活保護率が5割強であり、所持金を持っていない方もあり、不公平もあり、また、物盗られ妄想を喚起する可能性や、紛失によるトラブルのもとになるので、基本的に所持金はお断りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙の支援は行っている。ご希望により電話の支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、レクリエーションで制作した季節の貼り絵で季節感を演出したり、毎日の清掃管理に努めるなど環境整備には配慮している。	居心地の良い環境を作るために、窓を開け空気の入替えを頻回に行い、また、匂いに対しては消臭剤などをさりげなく噴霧するなど配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファの配置に工夫し、着席位置を工夫するなど環境づくりに配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、親しみある家具の持ち込みやTVを置くなど希望に沿うレイアウトを実施している。	以前から使われていたテレビや家具を置くなど、入居前のお部屋を再現できるよう支援されています。また、ベッドの下までしっかりと掃除機をかけるなどの細やかな配慮も行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段室を施錠し、エレベーターは自由に使用していただく等安全配慮しながら、能力に応じた自由度を確保している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	①	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	③	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	②	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	③	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない